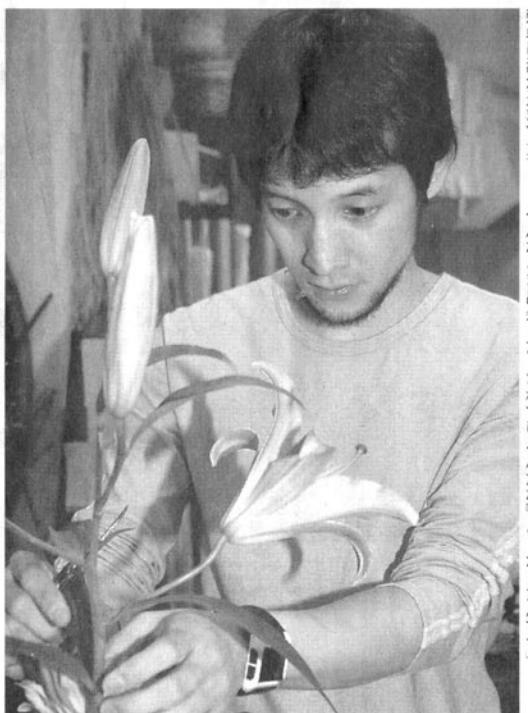


ひと月の県人

25歳で生花店開く 草薙 卓(32)=さいたま市



蓮卓は酒が過ぎて大下

夜、東京・新宿のバーに男女5人の若者が集つ。ミカンアルバイト経験者の同窓会。会社勤め、農業、フリー、タードと進路はまちまちだが、昔のように一つのテーブルを囲んで近況を語り合つ。ミカンアルバイトは面接会のため真穴から上京していた大下長久(67)が駆け付けた。草た。「うちの子やなかつたけど、毎日家に来とつたな。怒り倒したのはお前だけ。でも今、頑張つているのがうれしい」赤みの差した大下のほおがゆるむ。草薙の真穴初体験は20歳。都内の生花店を転々としていたが、客本位でない商売の仕方に嫌気ががさしてい

説教され信頼関係実感

「うもの子やなかつたけど、毎日家に来とつたな。怒り倒したのはお前だけ。でも今、頑張っているのがうれしい」赤みの差した大下のほおがゆるむ。
草薙の真穴初体験は20歳。都内の生花店を転々としていたが、客本位でない商売の仕方に嫌気がさしていく。そんなとこで出会ったた。

たちは「山で会うと」
切しやべらないほどま
じめ。でも酒が入ると
本当に楽しんでいる。
ギャップが面白かった
た。かっこいい彼ら
に真剣に説教され、心
からかわいがられた。
「人の運がいいんで
すね、僕は。自分の足
で歩いているんだと
言い張つたけど、真
穴の人に会って「生か
されているんだな」と
かかったんです」

25歳で静かな住宅街
に小さな花店を開いた。ガーデニングなど
の仕事で空けることが多
いが、客は外に置い
た鉢を勝手に持ち帰
り、後で必ずお金を払
いに来る。信頼関係が確
かにある。「信用して
て当たり前。『そんなん

先輩アルバイターその後

地元農家に婿入り

内田 優一(46)

村田優一は、ミカンノルバイトがきっかけで農家を継いだ。眞空に定住したのは約8年前。流れ着いたといふべきか。「いろいろ転機があつてね」。人生を見直したいと始めた旅の終着点となつた。

人生見直す旅の終着点

消えさせていた。
1. 北海道で牧場の馬や牛の世話をしたり、サケの加工に従事したけど2年ほど歩いた。アルバイト仲間から穴のミカン収穫を知り、農家に直接掛け合って一ヵ月余り働いた。縁あって地元農家に婿入りした。

A black and white photograph of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a jacket over a light shirt. He is positioned in front of a scenic landscape featuring mountains, trees, and a body of water under a clear sky.

カナダの森林と伐木

個性豊かなミカンアルバイトは、小さな農村社会にとっていわば「異邦人」。それが不思議と日常に受け込んでいる。真穴は、旅人を引き寄せて包み込む里もある。



――おおらかさで、いかがですか。いいかげんというか……」アルバイターの受け入れ組織「みかん会」の里雇用促進扶助会議の会長松浦赳（まつうら しゆ）は笑って言葉を継ぐ。「それでは、『北針（きたばり）』の精神から生まれるとのよ」
「北針」とは地域で語り継がれる先人の偉業の物語。
1913（大正2）年、真穴の浜から1隻の帆掛け船がひそかにさき出た。打瀬船（うたせぶね）と呼ばれる全長15m弱の船には、漁師や農家の若者15人。目的は渡米。

(羅針盤)を頼りに太平洋を横断、58日をかけて西海岸にたどり着く離れ業を成し遂げた。一行はすぐ深入国者として強制送還されが、日系社会や故郷へは英雄視された。「諭標」。それが今も恵みの「チャレンジ精神」といふわけだ。

「北針」以前の明治期にも多くの移住者がそれを送り出した真穴は、外国の文物が身近にある開明的な村でもあった。小学校に入った。戦後間もないころ、米国に住む緑者から小さな包が届いた。ほのかに

「異邦人」包むおおらかさ

「かっこいいジャンパーや当時珍しい冷蔵庫もあった。窓穴に行けばコーラー¹が飲めるともいわるものだ」里の歴史が培つてできた進取の気性。海を越えて同化する気質はまた、外から人を受け入れられる素地²でもある。アルバイター事業はそうした風土から生まれたものだと、松浦は考える。

ミカン収穫の繁忙期。かつては大洲市や西予市など近隣の稻作農家から人手を集めてきた。しかし70年代ごろから、高齢化の影響で

「なくてはならん戦力」と同時に、農村の営みの良さや真穴ミカンのおいしさも、世間に触れる機会が増えることは、地元の子どもたちにとって人間としての幅を広げる良い刺激にもなる。

「だからホームステイが原則。地域がきちつと受け止めないと人間関係が生まれない。単なる労働者では寂しい話いや。アルバイトからが『真穴に来て良かったな』という社会をつくろう。そう思ふんよ」